



## 特集: 防災と外国人

日本の外国人登録者数は平成19年末現在で約216万人と、10年前(平成9年末)の約148万人に比べると68万人増加し、約1.5倍になっています。また、今後のグローバル化の進展および人口減少・少子高齢化傾向を勘案すると、外国人住民のさらなる増加が予想されます。熊本県も例外ではありません。平成19年末現在で約9,100人と、10年前の約4,800人から4,300人増加し約1.9倍になっています。在留資格別では「永住者」、「特定活動」、「日本人配偶者等」、「研修」の上位4位が全体の58%を占めています。これらの外国人住民は長期的に熊本に滞在する可能性の高い方々です。このような中、異なる言語や文化背景をもつ人々が、互いの文化を認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことができるような、多文化共生の地域づくりを推し進める必要性が増しています。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災をはじめ、平成16年の新潟県中越地震、平成17年の福岡西方沖地震、平成19年の新潟県中越沖地震、先月14日に発生した岩手・宮城内陸地震など、震度6以上の地震がこの13年間に5回も発生しています。熊本ではこの約120年間、震度6以上の大きな地震は発生していませんが、今後も発生しないとは言えません。熊本には二つの大きな断層(立田山断層と布田川断層帯)があり、大規模地震発生の可能性があります。海外でも地震発生はないといわれていたオーストラリアや東南アジアでも地震は発生しています。

普段から弱震の地震を体験している私たち日本人でも実際に大規模災害が発生したときにはパニックになります。ましてや、地震を経験したことがない外国人住民は、私たち以上にパニックになることでしょう。

すべての災害時にいえる事は特に日本語によるコミュニケーションが困難な外国人住民は、災害発生時に特別な支援が必要となる「災害時要援護者」(災害弱者)であること。私達が日頃得ているほとんどすべての情報は日本語であり、この情報が外国

人住民にすべては伝わっていないと言う事です。文化・習慣のちがいがから、大規模災害発生時の避難所における日本人住民とのトラブルも予想されます。これらの課題に対応するためには災害発生時の対応はもちろんのこと、平常時から外国人住民に対する



外国人の地震体験の様子

防災教育・訓練や防災情報の提供を行うとともに、緊急時に対応した、多様な言語による各種気象情報の配信や避難誘導のほか、避難所における外国人住民の支援方策などを構築していくことが必要です。国によっては防災訓練もなく地域に避難場所も設置されておらず日頃から災害時の備えをして置くと言う意

### CONTENTS

防災と外国人	1・2P
NGO最前線	3P
KIFからのお知らせ	4P
KIFからのお知らせ&国際掲示板	5P
世界を知る<国際協力>—JICAの取り組み—	6P
未来のために	7P
ちょっといわせてはいよ	8P

識もないようです。

このような中、熊本市国際交流振興事業団では、外国人住民に参加を呼びかけ、熊本市広域防災センターを訪問し、水害、台風、地震体験の設備を使用して、災害などの模擬体験したり、毎年開催される、『熊本市総合防災訓練』では外国人の方々が広報車に同乗して、母国語での災害時の情報提供体験やその他の訓練に参加してもらったりして、実際の災害時にどのような行動をとるべきかを認識してもらっています。また、自分が住む地域の広域避難場所で行われる防災訓練などに積極的に参加していただき、どこに避難し、そこでどのような支援を受けられるのかを知ること、スムーズに避難することができる様な地域と外国人住民の関係構築を図っています。このような訓練により地域住民と外国人住民との交流が生まれ、互いの地域に住む住民として日常から顔の見える関係となり、実際に災害が発生した時には地域住民と外国人住民が一緒に支援しあう多文化共生の社会が生まれます。



総合防災訓練の様子

今年度の新しい取り組みとして（財）自治体国際化協会（CLAIR）※の助成を受け、同協会が作成した携帯電話用多言語情報ツールを活用した多言語による情報発信システムの構築を行います。この取り組みは災害等緊急時に災害情報、避難情報等を直接必要な外国人の手元（携帯電話）へ提供することで、特に緊急時には情報弱者に成りがちな外国人へ間違った情報で行動しないように正確な情報提供を行い、安全に避難誘導することができるシステム作りを目的としています。災害情報等緊急情報のない平常時は、行政情報やイベント情報など日常生活に密着した情報を多言語で提供します。この情報提供システムを最大限に活用していただくために、まず、外国人の現状調査を実施します。この調査の結果により、外国人の集住地域、生活環境の把握や国際結婚による子供の母語保持問題、外国籍児童の転編



黒髪校区での活動の様子(119番ダイヤル体験)

入、日本語教育、進学やいじめなど様々な課題を知ることで、必要な情報、ニーズにあった情報提供をどのような方法で提供するかを判断することができます。日常的に利用される環境ができて初めて、災害情報が生きてきます。しかし、情報提供のシステムがどんなに整っても、被災体験のない外国人住民が災害時どのように行動するのには想像できません。やはり一緒に生活している地域住民の皆さんの理解と協力が必要となります。

たとえば、黒髪地区では、校区の民生委員の方々と北保健福祉センターが協力し、地域に住む外国人との交流プログラムや緊急時の対応の勉強会を通してお互いを知る活動を実施しています。このグループでは、今まで日本の食材でつくる離乳食教室や消防署から救急救命士を招いて、119番の緊急ダイヤルのかけ方等の体験をしました。119番ダイヤルのかけ方をロールプレイで練習した時には、普段は日本語を上手に話していた外国の方でも、実際にやってみると、うまく状況を伝えることができなかつたり、消防署員の使う「火災ですか？」「救急ですか？」という質問が日常耳慣れない日本語だったため、意味がわからないということもありました。そこで、「火事ですか？」「病気ですか？」というようなやさしい日本語に言い換えることで理解することができました。その他、緊急ダイヤルの番号が国によって違ったり、救急車が有料だったりというシステムの違いをお互いによく知る機会となりました。

今後事業団では、このような地域活動が広がり、実践されていくことにより、外国人住民と地域住民との相互理解が深まる、多文化共生の“地域づくり”を推進していきます。

※（財）自治体国際化協会（CLAIR）は、地方自治体の国際化を目指す団体で、JETプログラム、国際協力支援、姉妹自治体などの情報を提供しています。HP：http://www.clair.or.jp

# 医療通訳とその必要性

筆者:熊本同時通訳者協会 代表 最相博子さん



最相博子さん

医療通訳とは、母国語とは異なる言語の環境で医療機関に関わる必要性が出てきた際の患者と医師、もしくは看護師などの医療従事者の間のコミュニケーションを図るものです。北米では、1970年代に移民の多い地域で医療通訳の必要性がめばえ、medical interpretingという言葉が使われるようになりました。1980年代に入り、全米各地で独自にトレーニングが行われるようになり、ボランティアが主体の現在の日本と似た状況になりました。1991年ワシントン州で医療通訳認定制度が始まったのを皮切りに、1998年には National Council for Interpreting in Health Care (NCIHC) が設立され、その動きは全米へと広がりつつあります。

さて日本では、神奈川県「MICかながわ」、京都市の「多文化共生きょうと」などのNPOが中心になった医療通訳者派遣の動きなど、様々な形で医療通訳者の派遣の実態およびその必要性が明確になってきていますし、今年4月には第1回医療英語検定試験も実施されました。

私は、2004年より、全国の状況を学びはじめ、在住外国人の方が増えつつある熊本にも医療通訳者派遣システムを構築する必要があると、一昨年前より、医療通訳のシンポジウムや医療通訳勉強会を実施してまいりました。今年度中には派遣システムを立ち上げるべく準備の段階です。

医療通訳というのは、非常に高い専門性が要求される一方で、現状では患者さん負担の場合が多く、ボランティア程

度の低料金で実施されています。そのため人材確保には病院、行政、通訳者が一体となったシステム作りが求められています。熊本同時通訳者協会では、実際に通訳が出来る人材の養成が第一と考え、昨年7月より医療通訳勉強会を実施して参りました。現在、神奈川では10言語に対応できる体制が整っているようです。熊本でも少なくとも3言語—英語、中国語、韓国語—での対応を目指し、これからも勉強会を続ける一方でシステム作りにも励んでいく予定です。

私自身これまでに何度も、日本語がほとんど出来ない方が医師の診断や治療を受けるという場面に立ち会って参りました。注射1本にしても、患者さんは訳がわからずとても不安になります。また多くの留学生の家族の方が幼児を抱えて大変不安な状態にあるとも聞いています。ご協力頂ける方はぜひご一報ください。また、日本語が堪能な、海外から来られている方をご存じの方は是非ご紹介ください。皆さんの力で、熊本を、日本語が話せない人々にとっても住みやすい町へと変えていこうではありませんか!



授業風景

## 問い合わせ先

〒861-8002 熊本市龍田町弓削908-27

熊本同時通訳者協会

FAX : 096-338-1185

TEL : 090-2968-4971

E-mail : h2i3r2o1k2o@yahoo.co.jp

留学生の皆様へ 日本の学生さんと楽しく交流できます!

## 食事・家具・家電付き 男女学生会館

### ドーミー熊本

DORMY KUMAMOTO 女性専用フロア有

通学にも便利で好立地の味噌天神

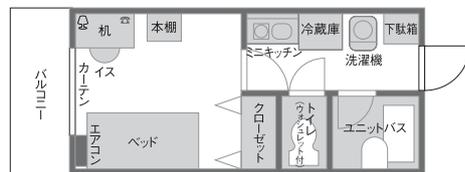
市電「味噌天神前」電停より徒歩約1分

JR豊肥本線「新水前寺」駅より徒歩約5分

〒862-0971 熊本市大江5-17-27



いつもおいしい食事とマネージャー夫妻がいてくれるので生活もセキュリティもとっても安心!



【ワンルームマンションタイプ】16.5㎡

- CHECK POINT!**
- 1 留学生の方は、**特別料金**でご入居できます
  - 2 **短期間**から利用可能です
  - 3 **インターネット**利用可能(パソコン本体はごさいません)
  - 4 マネージャー夫婦が**親身に御世話**をさせていただきます

全国1,100名の留学生入居実績!



お問い合わせお申し込みは



0120-88-4921

共立の学生会館

検索



ひとを包むエネルギー  
株式会社 共立メンテナンス

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-3-23 東証一部上場企業

## ◆ インターナショナルサロン ◆

気軽に国際交流が楽しめると大好評のインターナショナルサロン。7月、8月の予定は下記のとおりです。お申し込みは7月は3日(木)、8月は1日(金)9:00からの受付となります。お早めにご予約下さい。参加費は各300円です。

定員：各18名

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

時間：(1)～(4) 14:00～15:00、18:30～19:30  
 (5)～(6) 14:00～15:00  
 (7)～(9) 18:30～19:30

(1) アメリカサロン	7月10日(木)、8月21日(木)
(2) 中国サロン	7月24日(木)、8月28日(木)
(3) ドイツサロン	7月、8月は、お休みします
(4) 英語サロン	7月15日(火)、8月12日(火)
(5) 韓国語を学ぼうサロン	7月25日(金)、8月22日(金)
(6) 中国語を学ぼうサロン	7月18日(金)、8月15日(金)
(7) 中国語サロン	7月22日(火)、8月26日(火)
(8) ドイツ語サロン	7月、8月は、お休みします
(9) フランス語サロン	7月18日(金)、8月15日(金)

## ◆ つきいち世界をしろろ ◆

小中学生を対象に、月一回世界中のおもしろい習慣や風習を体験したり、歴史について学びながらもっと世界を身近に感じてもらうイベントです。参加無料！7月のつきいちはこども「ものづくり」教室と合同で開催します。(下段のこども「ものづくり」教室をご参照ください。)

8月のテーマは“**中秋節**”

講師の出身国の中国での中秋節(お月見)の楽しい過ごし方を紹介します。中国ではどんな意味があり、どのようなことをするのでしょうか？

講師：方 暁晴さん 定員：20名

日時：8月16日(土) 10:00～12:00

場所：熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム

参加方法：8月1日(金)9:00から申し込み受付開始

## ◆ ブラジル移民百周年記念特別講演会 ◆

「異国の地で日本女性はどう生きたのか」

郷土出身のジャーナリスト日下野良武(くさかの よしたけ)氏が自らの取材を通じて出会った女性たちが、ブラジルでどのような思いで過ごし、根付いていったかなどについてお話しします。

日時：7月13日(日) 17:00～18:30

場所：熊本市国際交流会館 2F国際交流ラウンジ

定員：50名(要予約・先着順)

対象：どなたでも

## ◆ 「逢いたくば」～ブラジル移民百年の肖像～写真展 ◆

郷土出身で1908年(明治41年)最初のブラジル移民船「笠戸丸」の乗船者でただ一人生存されていた熊本出身の中川トミさん(2006年逝去・享年100歳)を始めとする移民の人々や彼らの子孫にあたる日系人の肖像を追いかけ、日本に生きる私たちが忘れかけている「こころ」を見つめなおす写真展です。

日時：7月1日(火)～13日(日)

場所：熊本市国際交流会館1Fエントランスホール

## ◆ こども「ものづくり」教室 ◆

毎月1回、「ものづくり」を通して、子ども達の無限の創造力を引き出し、豊かな心を育てます。一つのものをつくるという活動を通して文化、習慣の違う在住外国の方々とふれあい、交流を深めます。熊本ものづくり塾と共同開催です。参加無料！

7月の作品 ケナフの「和紙・うちわ」

日時：7月20日(日) 10:00～12:00

場所：熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム

定員：30名(先着順) 対象：小中学生とその家族

参加方法：7月3日(木)9:00から申し込み受付開始

## ◆ 世界の現状を知ろう ◆

～ウズベキスタン～

ウズベキスタンってどんな国？青年海外協力隊員として現地で看護活動の経験をお持ちの元隊員の方にウズベキスタンの魅力についてご紹介していただきます。

日時：7月26日(土) 16:00～17:00

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

定員：20名

対象：どなたでも

参加費：無料

参加方法：7月3日(木)9:00から申し込み受付開始

～カンボジア～

カンボジアってどんな国？NGO活動を通してカンボジアとの交流・協力活動を続けているKIC(熊本国際化センター)代表の谷川正敏氏にカンボジアを紹介していただきます。熊本との意外な歴史的繋がりが見つかるかも！

日時：8月23日(土) 14:00～15:00

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

定員：20名

対象：どなたでも

参加費：無料

参加方法：8月1日(金)9:00から申し込み受付開始

## ◆ 留学セミナー ◆

幼少の頃から欧米、アジア各地を訪れ、国際開発、文化交流、コミュニティー活動に携わり、英国留学体験を活かし、県立熊本高校に在学中、ボランティアコミュニティー活動グループHand in Handの設立者である立山けい(たてやま けい)さん。留学するまでの高校時代に考えたこと、実際に留学してみて感じたこと、ニューヨークでの生活の様子を映像を交えながらお話しします。

日時：7月19日(土) 14:00～16:00

場所：熊本市国際交流会館 2F国際交流ラウンジ

対象：熊本市及び近郊に在住する大学生、高校生、専門学校生

参加方法：7月3日(木)9:00から申し込み受付開始

◆熊本市国際交流会館オープンセンターデー<7月12日(日)>◆

第1部 「サマーファッションコンテスト2008」

夏の恒例となった熊本市国際交流会館1Fロビーをつかったファッションコンテストを行います。ヒロ・デザイン専門学校の生徒の力作が勢ぞろい!今年のテーマはリベルタージ!ブラジル移民100年を記念した作品なども登場します。是非ご来場下さい。  
時間:15:00~16:30  
場所:熊本市国際交流会館1Fエントランスホール

第2部 「ノーモア地雷デー in 2008」

地雷廃絶の取り組みに賛同した若者たちが音楽を通して、その被害に遭われた方々の支援を呼びかけるコンサートです。高校生ロックバンドや、飯島輪くんによるバイオリンコンサートなどが行われます。  
時間:17:30~19:30  
場所:熊本市国際交流会館7F ホール

◆親子で英会話!◆

今年の夏は親子で英語を学びませんか!歌や遊びを中心に、親子で楽しめる英語プログラムを開催します。オーストラリア出身の先生が優しく英語を教えてください。  
日時:7月22日、23日、29日、30日  
8月6日、7日、8日、27日(全8回)  
10:00~11:00  
場所:熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム、大広間A  
対象:就学前の4歳~6歳の幼児と保護者  
募集組:親子12組  
参加費:5,000円  
参加方法:7月3日(木)9:00から申し込み受付開始

◆夏休み子ども英語クラブ◆

英語体験ができるプログラムを実施します。ゲームや歌を通して楽しく自由に、生きた英語に触れてみませんか?  
日時:7月29日  
8月5日、8日、13日、19日、20日、22日、26日  
全8回 10:00~11:30(小学3~4年生の児童)  
14:00~15:30(小学5~6年生の児童)  
場所:熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム、大広間A  
対象:小学3~4年生の児童、小学5~6年生の児童  
定員:各20名 参加費:2,000円  
参加方法:7月3日(木)9:00から申し込み受付開始

国際掲示板

●熊本アイランド協会 第10期 市民講座「ラフカディオ・ハーンと熊本」

明治24年五高に英語教師として来熊し、当時の青年に多大の影響を与えたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を通して熊本とアイランドは深い関係にあります。そこで関係各界の協力を得て平成10年以来「ハーンと熊本」、父の祖国である「アイランドの社会と文化」などの市民講座を9期(59回)にわたり開催してきました。10期になる今年は「ラフカディオ・ハーンと熊本」をテーマに下記の通り市民講座を開催いたします。分かりやすく楽しい講座ですので、お気軽にご参加下さいませようご案内申し上げます。

主催:熊本アイランド協会 熊本近代文学館 同・文学館友の会 熊本八雲会 小泉八雲熊本旧居保存会  
熊本大学小泉八雲研究会 五高記念館友の会 熊本市教育委員会

	日程	演 題	講 師	会 場
1	6/29(日) 午後5時から	パネルディスカッション 「ラフカディオ・ハーンと熊本」	パネラー ・中島景吉(小泉八雲熊本旧居保存会会長) ・中村青史(熊本八雲会会長) ・西川盛雄(熊本大学教授)	小泉八雲熊本旧居
2	7/12(土)	「ラフカディオ・ハーンを音楽で表現すれば!」?	加藤さとる(下関市) 音楽家(作曲、ピアノ)	県立図書館3階大研修室
3	10/11(土)	「小泉八雲の熊本時代」	本田憲之助(元・化血研副所長)	熊本大学五高記念館
4	11/8(土)	「題未定」	アラン・ローゼン(予定) 熊本大学助教授	小泉八雲熊本旧居

※時間:午後2時~3時30分(但し、第1回目のみ午後5時から) ※参加料:無料 (但し、小泉八雲熊本旧居は入館料が必要)  
※参加ご希望の方は当日、自由にお出下さい。 ※過去の講座内容はブログに掲載。

問い合わせ先 熊本アイランド協会事務局長 松村直寛  
〒861-8001 熊本市武蔵ヶ丘4-12-18  
Tel & Fax 096-215-8522 Email:chokkan@digfrontis.com

熊本アイランド協会ブログ <http://www.kumamoto-ireland.org>  
セント・パトリックス・デイ・パレード熊本 URL <http://www.kumamotoparade.com>

●日本ユニセフ協会熊本県支部事務局 第16回「アフリカの子どもの日」in Kumamoto 「もっと知ろうアフリカ!2008」

熊本とアフリカ諸国の若者が、さまざまな問題に対して共に考え、意見を直接伝え合い交流を深める事を目的に、毎年開催されている「アフリカの子どもの日」が今年も下記の内容で開催されます。ぜひ参加して一緒にアフリカについて考えてみませんか!

アフリカン  
ウィーク

2008年  
7月1日(火)~6日(日)

- 田沼武能写真展「アフリカ\_子どもたちの日々」  
7月1日(火)~6日(日) 県立美術館分館第2室
- サッカー親善交流試合 7月4日(金) 16:00より 藤園中学校
- 水俣エコツアー 7月4日(金)アフリカの若者と考える環境問題
- 「アフリカの子どもの日」in Kumamoto 7月5日(土)、6日(日)  
くまもと県民交流館/レオホール(鶴屋百貨店東館10階)  
対象:在日アフリカ出身者、熊本の小、中、高校生、大学生、先生、一般の方

参加費:無料 但し、食事代として交流会 学生1000円 一般5000円  
6日昼食代(アフリカ料理ほか)500円

問い合わせ先:日本ユニセフ協会熊本県支部事務局  
〒860-0807熊本市下通1丁目5-14メガネの大宝堂5階  
TEL 096-326-2154 FAX 096-356-4837  
URL <http://www1.odn.ne.jp/unicef-kumamoto/>



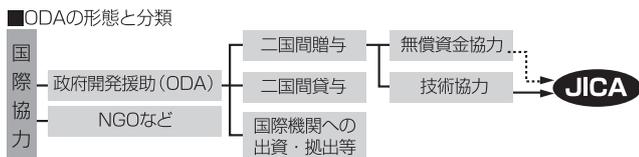
# 世界を知る。

このページは、「世界を知る」をテーマに日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を、「国際協力」と「留学」の各専門家からのご紹介いただくシリーズです。国際協力については、独立行政法人国際協力機構（JICA）JICAデスク熊本 国際協力推進員の吉田 智和さん、留学については留学アドバイザーの方々です。（今号での「留学」はお休みします）

## <国際協力> - JICAの取り組み -

こんにちは、前号でブルキナファソでの協力隊活動を紹介しましたJICAデスク熊本（国際協力推進員）の吉田智和です。今回は、独立行政法人国際協力機構（JICA: Japan International Cooperation Agency）の取り組みをご紹介します。

現在、開発途上国の社会・経済の開発を支援するため、政府をはじめ、国際機関、NGO、民間企業などさまざまな組織や団体が経済協力を行っています。これらの経済協力のうち、政府が開発途上国に行う資金や技術の協力を政府開発援助（ODA: Official Development Assistance）といい、ODAにおける技術協力と無償資金協力の一部の事業を実施しているのが、JICAです。



JICAは、開発途上国の社会や経済が自律的に発展できるよう『人を通じた国際協力』を行っています。国際協力を行うにあたって①開発途上国のニーズに的確にかつ迅速に応えられるよう、現場の声、現場の目を大切にすること。②「人間の安全保障」の視点を取り入れて活動すること。③独立行政法人として、事業の効果・効率性をいっそう高めていくこと。以上の3つの点に心がけ、民間企業やコンサルタント、NGO、大学、研究機関など多くの組織や人たちの力を借り、

- 開発途上国の開発計画づくりの支援、アドバイス
- 行政官や技術者を日本に招いての研修
- 日本からの専門的技術者、知識者の派遣
- 現場の状況に応じたオーダーメイドの協力計画の策定、実施
- 青年海外協力隊、シニア海外ボランティアをはじめとしたボランティアの派遣
- 大規模災害時の国際緊急援助隊派遣などの事業を行っています。そのほか地域、学校、個人で参加出来るプログラムとして、
- ODA民間モニター（海外視察）
- 「世界の笑顔のために」プログラム（物品提供）
- 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
- JICA九州訪問（国内機関視察）
- 国際協力出前講座（講師派遣）
- イベント、セミナーへの参加などもあります。



JICAについて、国際協力について知りたい!話を聞いてみたい!なにか活動したい!と思われた方は、ぜひ国際交流会館にお越しください!いろいろな出会いを待っています。JICAの取り組み、それぞれのプログラムについて、詳しくはHP (<http://www.jica.go.jp>)に載っておりますのでご覧ください。

次号はコスタリカでの協力隊活動「零細企業の経営改善への取り組み」についてです。

※ KDSは、お客様満足の向上と社会への貢献を目指しております。

貴方の運転は 普通・普自二・大自二

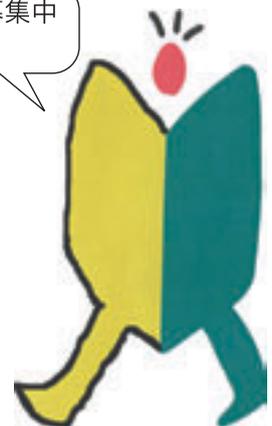
クイックコース募集中  
限定30名

# 熊本ドライビングスクール



熊本市楠6丁目6-25  
0120-373-634  
URL <http://www.k-ds.net/>

KDSから始まる



# 未来のために

熊本市国際交流振興事業団では、“多文化共生のまちづくり”実現に向け、全国で活躍されている新潟県長岡市国際交流センター長の羽賀友信氏をアドバイザーに迎え、熊本における共生社会への様々な諸問題解決に向けて取り組んでいます。

羽賀アドバイザーは、長岡市国際交流センター「地球広場」センター長に加え、カンボジアでは難民救援医療の国際緊急援助隊として活躍され、さらに新潟におけるNGOの支援組織の顧問や長岡市教育委員を兼任されるなど幅広く活動されています。また、災害に関しては平成16年の新潟県中越地震、平成19年の新潟県中越沖地震と二度にわたる震災では、

バイク隊を組織しスーパーバイザーとして外国籍市民の被災支援に当たられました。先月6月、羽賀アドバイザーにご来熊いただき「外国人の多文化共生と防災」についてお話いただきました。



KIF多文化共生アドバイザー 羽賀友信さん

日本における外国籍市民をどのように位置づけているか、根本的な問題は彼らの地方都市における実数が明確でないことです。日本に入って90日以内に外国人登録手続きをした後は、転出・転入の届け出をしない人が多いので地方自治体はそこに住む外国人の正確な人数を把握することができません。災害時においてその地域にどんな人がどれだけ住んでいるかを知らないということは大きな問題となります。

災害時というのは基本的には「日常時の増幅」というかたちで現れます。外国籍市民との関係においても日常時に良い関係を持っていれば、その関係はより良くなりますが、ちょっとでも悪い関係であれば、その亀裂は大きくなってしまい、ほとんど関係が成り立たなくなる恐れさえあります。そこで、日常生活での関係を良いものにしておく

ことが多文化共生では大切であり、その先にしか防災という考えは出てこないのです。

外国籍市民は能力、肉体的に劣っているのではなく、彼らは情報弱者です。情報を与えれば彼らは活性化され、自分の持っている能力を十分に発揮し、役に立つことができます。また、災害時は「言葉の壁」が顕著に出てくるものであり、不安感から文化の違いに対する対応が遅れてきます。そこで文化通訳という視点での人材育成が必要となります。

そんな時に一番役に立つのは留学生の力です。留学生は日本語教育を受けており、文化・語学の理解があるからです。しかし、大学としては危険な地域に学生を派遣することができないので、そういった場合にはラジオの力が必要とされます。ラジオというメディアを使った音訳・通訳の場で有効活用できるのです。実際に、災害時の様々な情報の中で一番有効だったのは「また明日も来ます」というような、言葉による安心感を与えることでした。安心感を与えることが最大のメリットであり、安心して冷静になって次の対応がとれるのです。

人によっては政府や公的機関を信用していない人もいますので、そういう違いを理解することが災害時のコーディネーターには必要とされます。トータルなことを把握した人材を育成しておくことが必要であり、そういった人材無しには災害時のシステムは立ち上がりません。災害に対するツールをいくら開発しても、実際にそれを使うのは人間であり、また、そのツールはすべてにおいて万能というものはないので補完的に人間が絡むことが必要なのです。

日常時に災害時にどう行動するかということを調査しておくことが必要であり、日本語教室等を受講している外国人に対して、アンケートなどのヒアリングを実施することが必要です。アンケート・ヒアリングを実施して外国人の考えを聞きだし、一方で、災害時の避難場所や対処方法を教えるという双方向のやりとりがすでに防災活動の一歩だと言えます。

これからの国際交流では「交流=出会い」だけでなく、その先の「共有」そして「協働」となった時に市民と在住外国人とのパートナーシップが生まれ、“外国籍市民”としての存在感がクローズアップされます。

**【平成20年度】新入生のための  
学校説明会開催中!**

『学年が遅れず進級・卒業が出来ます。高卒 日本航空高校 資格取得  
出席不足、欠課による留年決定でも諦めないで!』

日本航空高校【熊本キャンパス】

## 志成館高等学院

ホントウの勉強がしたくなくなったら

**平成20年度(新入生・転入生・編入生)受付中!**

**募集対象: [中学卒(新卒・既卒)・転校(転入・編入)希望者]**  
[授業料は負担の少ない月謝制を導入]

**特典**

- 各種奨学金制度
- 各種資格取得
- 特待生制度
- 全国大学・専門学校推薦制度

社会に出れば、すぐに役立つ!「使える勉強」を教えます。  
しかも、高卒 **日本航空高校** の学歴取得を支援します。  
あなたも新しい扉を開いてみませんか?

熊本本校

**☎0120-08-3730**

〒862-0973 熊本市大江本町7番3号

**熊本県教育委員会指定技能教育施設**

<http://www.siseikan.net> **資料無料送付**

